がちまやぁ
Gači-majaa

第13号・2007年9月28日(金)発行

年3回 (5・9・1月発行)

編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係
〒901-2710 宜野湾市野嵩1-1-2

問い合わせ・情報提供先
☎ (098)893−4431
Fax (098)893−4434
Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

戦前の宜野湾市では、字宜野湾を始め14の字で綱引きが行われていました。しかし綱引きを行う字も減少し、現在では真志喜と大山がワラ製の綱を、我如古でロープ製の綱が引かれるのみです。

かつて旧暦6月15日あるいは25日に、宜野湾馬場で行われていた字宜野湾の綱引きには、綱を高く持ち上げたままカヌチ棒を貫くというスタイルと、綱引き後に勝った側の綱を担ぎ上げ、馬場を蛇行する「戻り綱」に特徴がありました。字宜野湾の綱引きは誰でも参加できるスニン(諸人)綱で、雄綱には大山、雌綱には神山の人達が主に加勢したといいます。その綱引きも戦時体制下の影響を受け、1941(昭和16)年を最後に中断し、それ以来区の行事としての綱引きは行われていませんでした。しかし2006(平成18)年3月、多くの区民が参加した創作市民劇「じのーん産泉」(宜野湾市教育委員会主催)が公演されたことをきっかけに、綱引き復活の気運が高まり、「宜野湾区大綱引き実行委員会」が結成され、古老の記憶から綱を復元するなど、綱引き復活に向けて取り組んできました。かつて綱引きが行われた宜野湾馬場は、戦前の宜野湾集落とともに普天間飛行場に消えてしまったため、宜野湾区にある沖縄国際大学のグラウンドを会場とし、2007(平成19)年7月29日、宜野湾区の綱引きが66年ぶりに復活しました。

今回の『がちまやぁ』は、復活した「宜野湾区大綱引き」特集号とし、宜野湾区の綱引きを報告します。

■綱引きに剥けて

１．運営組織

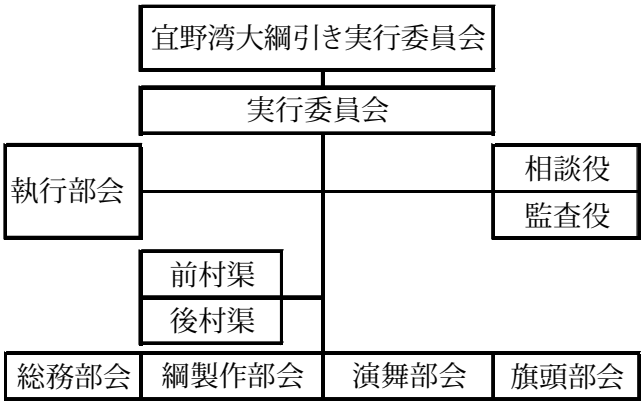
綱引きに向けて運営組織を立ち上げ、実行委員会を中心に各部会を設け、準備に取り組む（右図）。

実行委員長には、仲村清自治会長、副実行委員長に宮城幸盛郷友会会長があたる。

前村渠と後村渠への区分けは、下記のように班で分けた。

前村渠（メンダカリ・雄綱）…（６～12、14、15 班）

後村渠（クシンダカリ・雌綱）…（１～５、13 班）



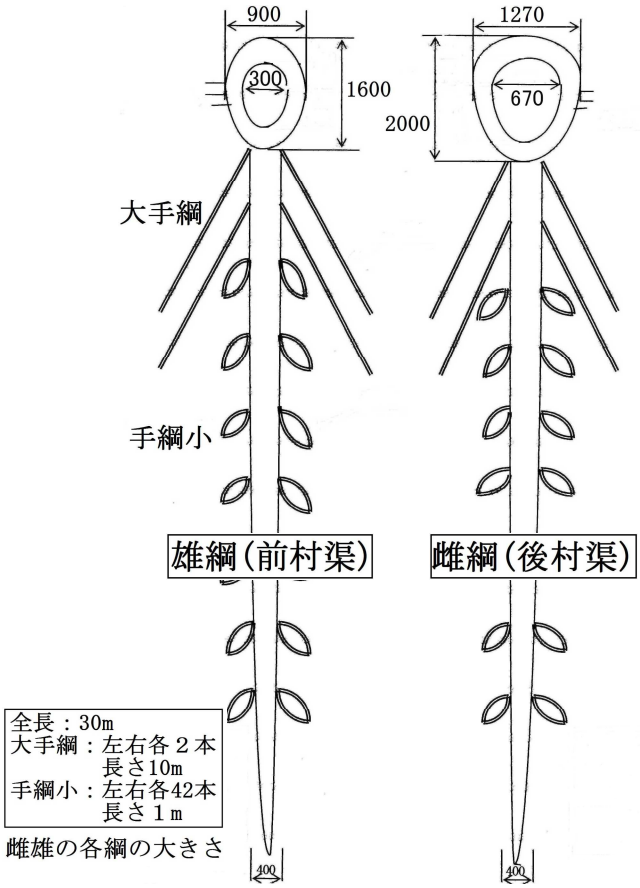
綱引き実行委員会組織図

２．綱作りと諸道具の準備

綱の材料である稲ワラは、金武町伊芸区から 2,600 坪分購入した。初めての綱引きとあって、毎年、綱引きを行っている宜野湾市真志喜や大山、西原町我謝、与那原大綱曳の関係者から綱引き実施にむけてのアドバイスを受けた。

綱作りは区内のマータクロー広場で、７月の土・日を利用して行った。ワラ束作りから始め、14 日（土）からは綱打ちが始まり、21 日（土）に大綱を製作した。その後、雌雄の綱をマータクロー広場からカトリック小中高校のグラウンドに運び、22 日（日）には前村渠、後村渠に分かれて綱の総仕上げを行った。

綱引きに使う主な道具としては、前村渠、後村渠のシンボルとしての旗頭がある。旗頭は 2006（平成 18）年２月に製作した。前村渠の竿先の飾りは桜で旗字は「豊年」、一方、後村渠の竿先の飾りは梅で旗字は「並松」である。また、子ども達は、さまざまな形や色取りのチヂンドゥール（鼓灯籠）を造って参加する。



全長：30m
大手綱：左右各２本
長さ10m
手綱小：左右各42本
長さ１m

雌雄の各綱の大きさ

綱の形態図

前村渠の旗頭（左）、後村渠の旗頭（右）。

子ども達が持つチヂンドゥール（鼓灯籠）。
竿先の部分（灯籠）は、灯りが点くようになっている。

３．綱引き拝み

■７月１５日（日）　……普天間飛行場外にある拝所を中心に拝む。

15: 00　宜野湾区公民館に集合。大綱引き実行委員長、副実行委員長、総務部会員３名、相談役１名、司祭者の宮城蒲助さんの計８名が参加。供物にはビンシー・白紙・線香（平御香）・餅・饅頭・果物（リンゴ、ネーブル、バナナ）・稲穂・お神酒（市販の玄米）が用意された。準備が整うと、普天満宮にむけて出発する。

15: 34～15: 50　普天満宮での拝み（写真①）。祈願の主な内容は、７月 29 日に大綱引きが 66 年ぶりに行われ、それに向けて多くの区民が準備に取り組んでいること、そして大綱引きが事故なく、成功することを祈る。

16: 05～16: 24　ヌン殿内（写真②）を拝み、次いでヌン殿内の裏側にあるトゥン（殿）（写真③）を拝む。

16: 30～16: 40　土帝君での拝み。直接現地には行かず、公民館裏側からお通しで拝む。

16: 48～17: 00　慰霊塔「はらから之塔」での拝み（写真④）。

①

②

③

④

■７月２２日（日）　……普天間飛行場内にある宜野湾区の御嶽や湧泉（カー）を拝む。

前回の拝み同様、実行委員長、副実行委員長、総務部会員、司祭者の宮城蒲助さん、計６名が参加。

供物は前回の内容に、麦・粟・小豆・大豆・オーマーミの５種類の穀物が追加された。9: 00 に区公民館に集合し、普天間飛行場の大山ゲートから基地内に入る。

10: 08～10: 14　産泉（ウブガー）。（写真⑤）

10: 18～10: 24　カラジアレーガー。産泉の西側約 30mに位置するが、現在は跡だけが残る。（写真⑥）

10: 35～10: 40　サクヌカー。カーそのものの場所ではなく、かつての場所と思われる方向に向かって遥拝。

10: 47～10: 58　クシヌウタキ（後ヌ御嶽）。最初に石灯籠前の香炉を拝み、次にイビ（写真⑦）を拝む。

11: 10～11: 15　メーヌウタキ（前ヌ御嶽）。（写真⑧）

11: 20～12: 00　基地内での拝みを終え、メーヌウタキの前で直会し、終える。

⑤

⑥

⑦

⑧

４．大綱引きのリハーサルと綱への拝み

７月 28 日（土）にカトリック小中高校のグラウンドで大綱引きのリハーサルが行われた。それに先駆け、11: 45 からは綱への拝みが行われた。綱のカナチ前にテーブルを置き、その上にビンシーや供物を供えた。司祭者は、前回と同様、宮城蒲助さんである。後村渠の綱（11: 45～）、前村渠の綱（11: 57～）の順序で拝み、各綱の拝みが終わる毎に、後村渠、前村渠の代表者と綱の上に立つシタクが、綱全体に塩をまいて清めた（12: 03 終了）。

14: 26～17: 10　リハーサル開始。旗頭演舞、メーモーイ、シーチェーなどの後に、綱を担ぎ、雌雄の綱をつないでカナチ棒を貫いて引き始めのタイミングを確認した。シュニンモーアシビを終え、戻り綱の練習も兼ねて綱を担いで蛇行しながら移動し、グラウンド入口付近に置いてリハーサルは終了した。

■綱引き当日

1．午前中

■7月29日(日)

9:05　綱とグラウンドの清め

綱全体に塩を振りかけ、カナチの付け根部分に塩を盛る。その後、会場となる沖国大のグラウンドを清めるための拝みを行い、グラウンドと綱の入場口に塩をまいた。

9:00～10:06　綱の移動

綱のカナチ部分をトラックの荷台に乗せ、胴部分を担ぎ、前村渠の綱を沖国大の本館正面の駐車場に、後村渠の綱を第一駐車場まで運ぶ。運んだ綱の側には、区民の待機場所が設置された。

2．道ジュネー

【前村渠】

16:00　道ジュネーの準備

待機場に役員、旗頭、六尺棒、シタク、メーモーイ衆、綱持ち衆、チンク隊、チヂンドゥールを持った子ども達が集合。それぞれが踊りや演奏、隊列の確認をした。(写真はチンク隊の練習)

18:31　前村渠の道ジュネー開始

綱の先端部にシタクが乗り、道ジュネーが開始された。先端のカナチ部分は10本前後の六尺棒で支えられ、道ジュネーの隊列は200人程であった。

【後村渠】

17:57　道ジュネー開始直前

道ジュネーの30分前には、参加者の人数・配置の確認が行われ、それぞれの持ち場で待機した。道ジュネーの開始前に、全員で一斉に声を上げて、気持ちを高めた。

18:31　後村渠の道ジュネー開始

旗頭を先頭にメーモーイ衆、チンク隊と続き、後尾に綱がつき、「ハルヤイ・ハーイヤ」の掛け声で会場を目指した。

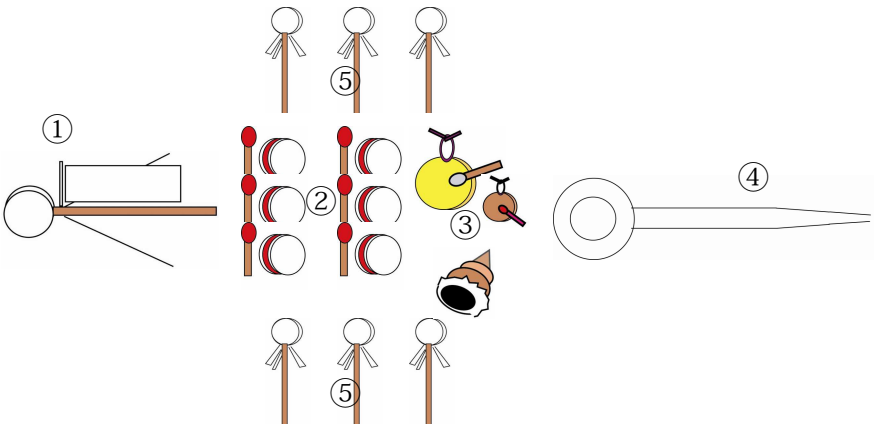
18:52　前村渠の会場入り

後村渠に続き、前村渠の綱がグラウンドに入場した。綱を所定の位置に降ろし、開会式が始まる。

18:44　会場入りする後村渠

後村渠の綱から先にグラウンドに入場し、所定の位置で前村渠の綱の到着を待っていた。

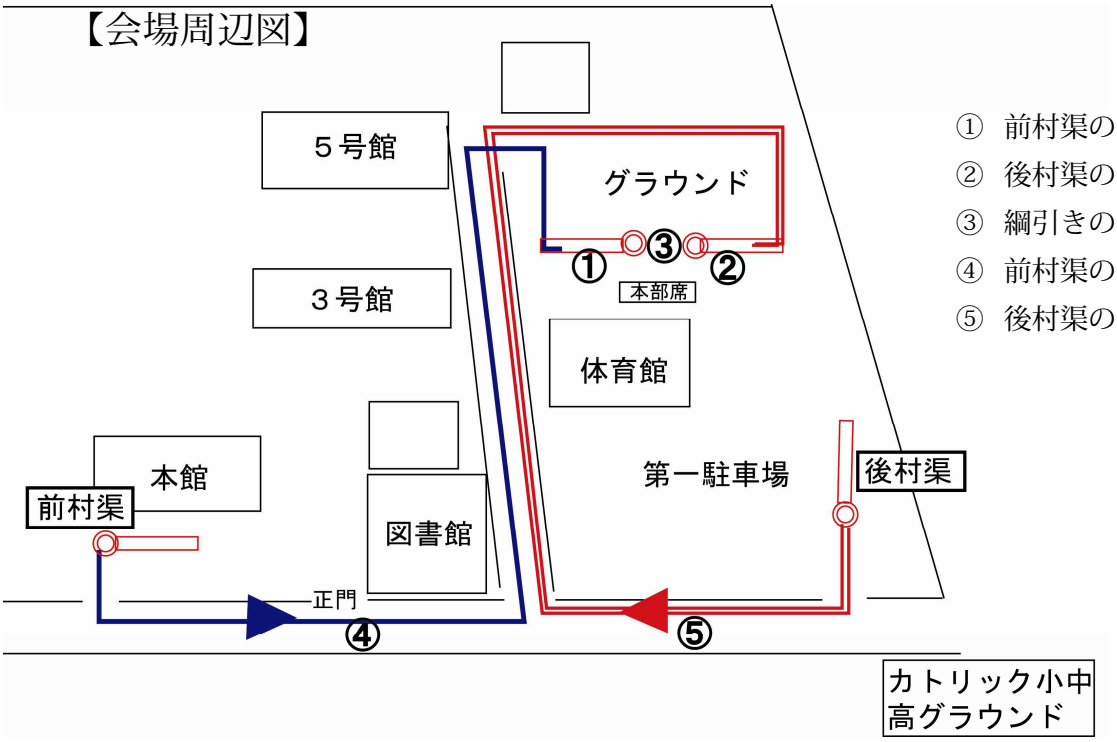
【道ジュネーの隊列】



旗頭を先頭に、チンク隊が演奏し、「ハルヤイ・ハーイヤ」の掛け声で行進した。メーモーイ衆は綱の方向を向き、後歩きで道ジュネーを行った。前村渠(雄綱)では、カナチ棒も一緒に行進した。

① 旗頭
② チヂン(鼓)を持つメーモーイ衆
③ チンク隊(ドラ、ショーグー、ホラ貝)
④ 綱
⑤ チヂンドゥール(鼓灯籠)を持つ子ども

【会場周辺図】



① 前村渠の綱
② 後村渠の綱
③ 綱引きの場所
④ 前村渠の道ジュネーの順路
⑤ 後村渠の道ジュネーの順路

３．開会式・ガーエー

前村渠・後村渠の綱が会場に到着すると、開会式が行われた。副実行委員長による開会の挨拶の後、来賓の宜野湾市長、沖国大学生部長の挨拶と続き、実行委員会総務部長の挨拶が行われた。その後、ガーエー(勝負事で大声をあげたり、もみ合うなどし勢いをつける) が行われ、区民による旗頭・シーチェー・メーモーイ、区内の空手道場による空手の演舞などが行われた。

19:32	旗頭ガーエー	旗頭部会
19:38	シーチェー	旗頭部会・演舞部会
19:40	空手	泉川・玉代勢空手道場
19:45	棒チケー	泉川・玉代勢空手道場
19:48	メーモーイ	ＯＢ会、婦人会

19:32　旗頭ガーエー

前村渠・後村渠それぞれの旗頭を空高く押し上げ競い合った。旗頭の担当は各 15 人で、前村渠は紺色、後村渠は赤色の衣装に身を包んでいた。

19:38　シーチェー

前村渠･後村渠の男性 20 人余りが体を密着させ円をつくり、六尺棒を両手で天に掲げ、押し競饅頭のように体を押し合った。

19:48　メーモーイ

前村渠・後村渠の女性達が対峙し、チヂンを打ち鳴らし、それぞれが交互に歌を掛け合い、最後に一緒に歌った。

４．綱引き

20:00～20:09　綱引き

ガーエーが終わり、実行委員長によるルール説明が行われた後、チンク隊が鳴り物を鳴らし、綱が持ち上げられた。雌雄の綱が互いに中央線に近づき、それぞれ綱を３回高く掲げた。綱がさらに接近し、シタクによって雄綱のカナチ部分に雌綱のカナチ部分をかぶせ入れた。つながったカナチ部分にカナチ棒が貫かれると、棒で支えていた綱を手に持ち替えた六尺棒衆がカナチ部分を地面に降ろし、シタクは綱から離れる。実行委員長も合図を行うが、地面に綱が降りると開始の合図となり、綱が引かれた。綱は一回勝負であり、先に 180cm 引いた側の勝ちとなる。勝敗は審判長によって判断される。

20:04　カナチ棒を貫く瞬間

シタクが雄綱(左) のカナチに雌綱(右) のカナチを被せ、カナチ棒(右下) が貫かれる。

カナチ棒が貫かれ、綱を引き始めた。掛け声とともに綱を引く前村渠。

カナチ棒付近。カナチ部分を上下にゆさぶりながら引いた。

20:12　戻り綱(ムルイヂナ)

綱引きは前村渠が勝利した。勝敗がつくとカナチ棒が抜かれ、すぐに男性達が前村渠の綱を担ぎ上げ、勢いよく蛇行しながら移動した。グラウンドの中央から南側(前村渠の綱の待機場の後ろ辺り)まで移動し、そこで綱を下ろした。

20:17　カナチ焼き

本部席正面で前村渠・後村渠の役員によって、綱の一部(縄の結び目)を焼いた。

かつては綱を所定の場所に置き、それぞれのカナチ部分を切り取って焼いたというが、大正の頃からはカナチの模型を焼いたという。火のケーシ(火災予防)の意味で行っていたという。

5．シュニンモーアシビ

字宜野湾のシュニンモーアシビ(諸人モーアシビ)は、かつては誰でも参加できる歌舞の場であったという。

今回シュニンモーアシビで行われたサングヮチャーは、旧暦３月３日に行われる女性の踊りで、他にも沖国大の学生による芸能、区民による民謡、空手、じのーん舞方保存会とＯＢ会による舞方が披露された。

20:25	サングヮチャーの儀式	婦人会・ＯＢ会
20:35	余興	ＯＢ会
20:39	余興	沖縄国際大学琉球芸能文学研究会
20:52	余興(民謡)	演舞部会
21:03	空手	泉川・玉代勢空手道場
21:08	舞方	じのーん舞方保存会・ＯＢ会
21:17	カチャーシー	参加者全員

21:08　宜野湾区の舞方(メーカタ)

舞方は“かぎやで風”を早めに弾いたもので、空手の型を舞踊風に踊ってカリーをつける。

■綱の処理

７月３０日（月）

13：15　沖国大グラウンドに置かれた雌雄の綱を片付ける。前村渠の綱から解体し始め、綱の胴部分やカナチ部分を鎌やハサミを使って切り、解く（13: 45 終了）。

13：50　次に後村渠の綱を、前村渠と同じように解体する（14: 02 終了）。

14：10　解いた綱を後村渠の綱から１本ずつとぐろ状に巻く。後村渠が終わると、前村渠の綱も同じようにとぐろ状に巻く（14: 30 終了）。

15：58　巻いた綱をトラックに載せて倉庫に運ぶ。

この綱は、那覇市首里で 10 月 27 日（土）に行われる「綾門大綱引き」の実行委員会に引き取られ、同大綱引きで再利用されることになっている。

鎌を使い綱を解体していく。

綱を荷台に積み込んでいく。

今回の「宜野湾区大綱引き」の実行委員長である仲村清自治会長にお話を伺いました。

仲村　清　宜野湾自治会長

Q. 今回の「宜野湾大綱引き」復活の経緯は？

A. 20～30 年前から区内でも綱引きを復活させたいという声はあったが、なかなかその機会がなかった。今回市民劇「じのーん産泉」で綱を作ったことから再び復活の声があがった。戦前の綱引きを知る方も高齢となっているため、今やらなければ二度と引けないという思いがあり、実行委員会を立ち上げることとなった。

Q. 今後の展開は？

A. 今回の綱引きは、区民にとって大きな自信となったと思う。実行委員会の中でも旗頭部会は残し、区民運動会などで毎年演舞する場をつくっていく。また、綱引きは今後３～５年のうちに行うことを実行委員会で確認した。綱引きを継続していく中で、宜野湾区の綱の形態がしっかりしていくと思う。

Q. 綱引きを終えて想うことは？

A. 大変な思いもしましたが、終えてしまうとあっという間で、充実感のある楽しみであった。綱引きを行って一番大きかったことは、区民が綱を自分たちで作ったということです。各年齢層、戦前からの区民と戦後新しく来た区民とが綱を一緒に作ったということで、自治会が一つになったと感じた。多くの区民が互いに協力していく中で、30、40 年前に来た人たちが「ようやく宜野湾人になれたかなという気持ちがする」と言っていた。このような機会がなければ、なかなかお互いに交流がもてなかった。目には見えないが、得たものはたくさんあった。今回の綱引きは、200 パーセントのできです。

※綱引きが成功に終わり、本当に良かったですね。宜野湾区のみなさん、お忙しい中、調査にご協力頂き、ありがとうございました。(文化課市史編集係)